

栄村小滝集落 魅力ある集落づくり事業 ～震災復興後の元気を取り戻す13戸の力～

取り組みに至る背景・事業の目的

2011年3月12日の長野県北部地震後、17戸あった世帯数が13戸に減少。集落全体の力が失われつつある中で、残った住民で集落の維持及び人口増を目指すため、「小滝古道を歩くツアー」の実施や「小滝米」のブランド化と販売促進活動を行うことで、都市等との交流の機会を増やし、小滝集落の良さを内外の人に再認識してもらう。

事業内容

- ・「小滝古道」整備、「古道歩きツアー」の実施（年2回）
魅力ある資源を活用しながら外部の人との交流による集落の魅力向上、活性化、定住対策につなげる。
- ・「小滝米」のブランド化、販売促進
「自らが売る」ことで資源の再発見、小滝集落の自信、自慢、誇りへの意識改革となることで活性化を図る。
- ・「震災体験記録集」の作成
後世へ記録の伝承と万人へ「万が一の備え」の提言。



事業効果

- ・ツアー述べ参加者50名。交流と郷土食、オリジナル商品化など資源活用への取り組みができた。
- ・「小滝米」の積極的な販売促進活動（東京、横浜、県内）の展開をすることにより販路の扉を開くことができた。
- ・後世への記録伝承と「万が一の備え」への提言ができた。

事業を実施することで「自らが仕掛けていく」意識改革がされ集落の活性化が図られ、集落存続への礎を築く事ができた。

工夫・苦労した点、課題、今後の取り組みなど

「楽しく、暮らしやすい小滝」という震災復興目標に向かってさらなる集落の魅力づくり活動を引き続き行っていきます。また、先人より培われてきた「小滝集落の和」を大切に引き継ぎながら、集落外の人々との交流を積極的に行い「暮らしてみたい小滝」づくりを進め、定住促進を図っていきます。

さらには、「300年後に小滝集落を引き継ぐ」夢とロマンを語っていきます。

【選定のポイント】

小滝古道歩きツアーの開催や小滝米の首都圏での販売促進活動など、都市との交流を活発に行い、集落外の人との交流を積極的に行った。

震災という大きな出来事を契機に、小さな集落であるが危機感を持ち、集落独自に震災復興計画を策定し計画的に取り組んでいる。

本取組も計画に基づくものであり、このような取組は「集落ごとの特色ある復興」を掲げる栄村にとってもモデルケースとなっており、他集落が行う震災復興の活動も広がりを見せている。

団体名 小滝復興プロジェクトチーム（栄村）	事業タイプ ソフト事業
連絡先 0269-87-2332	事業費 1,410,450円
ホームページ、メールアドレス ji0xsw@miy.janis.or.jp	支援金額 848,000円